平成28年度　医療技術等国際展開推進事業での派遣

筑波大学附属病院　医療機器管理センター
古垣　達也
派遣時期：平成 28 年 10 月 24 日～10 月 28 日

2016 年 10 月 24 日から 2016 年 10 月 28 日の 5 日間、ベトナム南部に位置するホーチミン市にあるチョーライ病院を訪問しました。目的はチョーライ病院と筑波大学附属病院で共同開催する“NEW TRENDS IN CARDIOVASCULAR DISEASES MANAGEMENT SEMINAR”への参加と発表、心臓病センターで開心術と術後管理および人工心肺と補助循環の技術指導を行うためで、心臓血管外科の平松祐司教授と徳永千穂講師と私の 3 名のチームを構成しました。

セミナーでは午前中は先天性心疾患のなかでも頻度の高い Fontan 型循環の解剖生理から術中・術後管理に至るまでの解説から、胸部大動脈瘤ステントグラフトの最新の現状、手術中の外科医、麻酔科医、体外循環技士、看護師など手術に関わるスタッフのコミニュニケーションスキルが医療事故を未然に防ぐ解説、術後リハビリテーションの重要性など外科に関連するレクチャーが行われ、午後には ICD や超音波エコー、虚血性心疾患に対するカテーテル治療の現状など内科に関連するレクチャーが行われ、会場からは活発な意見交換が交わされました。

心臓病センターでの手術と術後管理に関してですが、チョーライ病院は年間の開心術件数が 1000 症例を超える大きな施設で、毎日 3～5 症例を 3 つの手術室で行っています。人工心肺は麻酔ガスのセボフルレンを人工肺に吹送し血圧のコントロールを行っています。この方法は日本では普及していないため大変参考になりました。術後管理では、10 月 24 日に手術をした先天性心疾患の小児患者が、当日深夜に再手術し、循環と呼吸を補助する補助循環装置（ECMO）を装着していました。ECMO を装着した術後管理は非常に困難なうえ長期化します。毎日数回、外科医および ICU 医、それに我々と患者のベットサイドでカンファレンスを行い ECMO 離脱に向け治療方針を検討しました。その結果、10 月 28 日に ECMO を離脱する事ができ、チョーライ病院スタッフと我々との間に新たな絆が生まれました。

セミナーでの発表

ベットサイドでのカンファレンス